

参考資料

- 資料－1 狛江市下水道事業の財政
- 資料－2 野川処理区の合流式下水道緊急改善計画
- 資料－3 狛江市の地盤の特徴と地震対策

＜資料－1＞狛江市下水道事業の財政

狛江市下水道事業の財政シミュレーション結果(収支予測)を、資料図－1.1 に示します。

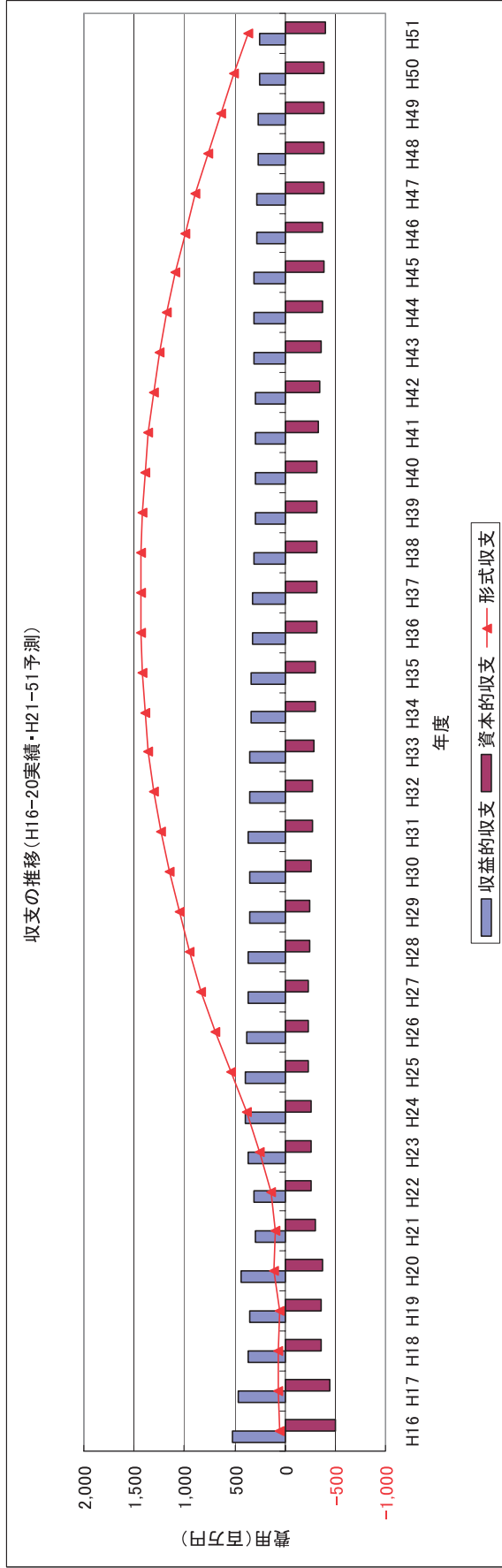
下水道事業の財政は、収益的収支^{※1}と資本的収支^{※2}を合計した形式収支により評価できますが、表示されるとおり、形式収支は、長期計画に向けて黒字が予測されています(なおシミュレーションでは、平成51年度以降で一時的に赤字になり、その後黒字に転換することが予測されます)。

また、収支予測結果をうけて算出した下水道事業債の推移を、資料図－1.2 に示します。表示されるとおり、今後30年間は、50～70億円の範囲内に事業債を抑えて、下水道運営を行っていく計画とします。

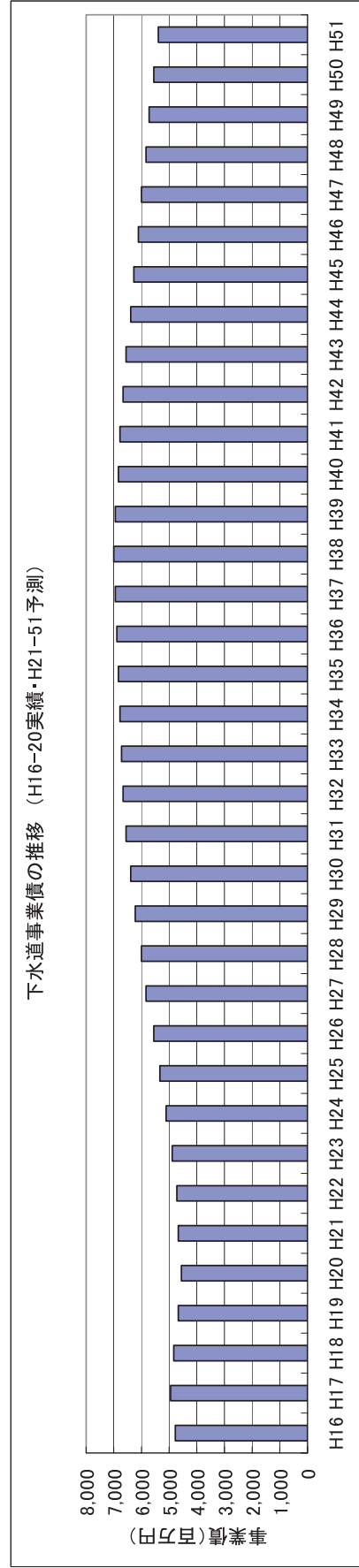
備考：シミュレーションは、従来の財源内訳の考え方(補助事業以外の95%は起債)に基づき行いましたが、当面、黒字計上が予測されるため、今後は黒字額の翌年度事業費への繰り入れも考慮しつつ、財政状況に応じて、適宜見直し対応を行うものとします。

※1) 収益的収支とは、主に「汚水処理や雨水排除のために必要な支出」と「下水道使用料等その財源となる収入」を合計した額です。一般に収益的収支は、支出より収入の方が多く黒字表示になります。

※2) 資本的収支とは、主に「施設を整備・更新するために必要な支出」と「国や都の補助金等その財源となる収入」を合計した額です。一般に資本的収支は、収入より支出の方が多く赤字表示になります。



資料図一1.1 財政シミュレーション (収支の予測)



資料図一1.2 下水道事業債残高の推移

＜資料－２＞野川処理区の合流式下水道緊急改善計画

狛江市の下水道は、6市で構成される流域下水道野川処理区に属していますが、それを管理する東京都では、平成21年度に野川処理区全体で検討した「野川処理区合流式下水道緊急改善計画」を策定し、構成市に対して必要な施策量を提示しています。

提示された「野川処理区合流式下水道緊急改善計画」を、資料表－１に示します。狛江市下水道総合計画で示す「狛江市合流式下水道緊急整備計画」は、これに基づき、より詳細な狛江市の計画としてとりまとめられたものです。

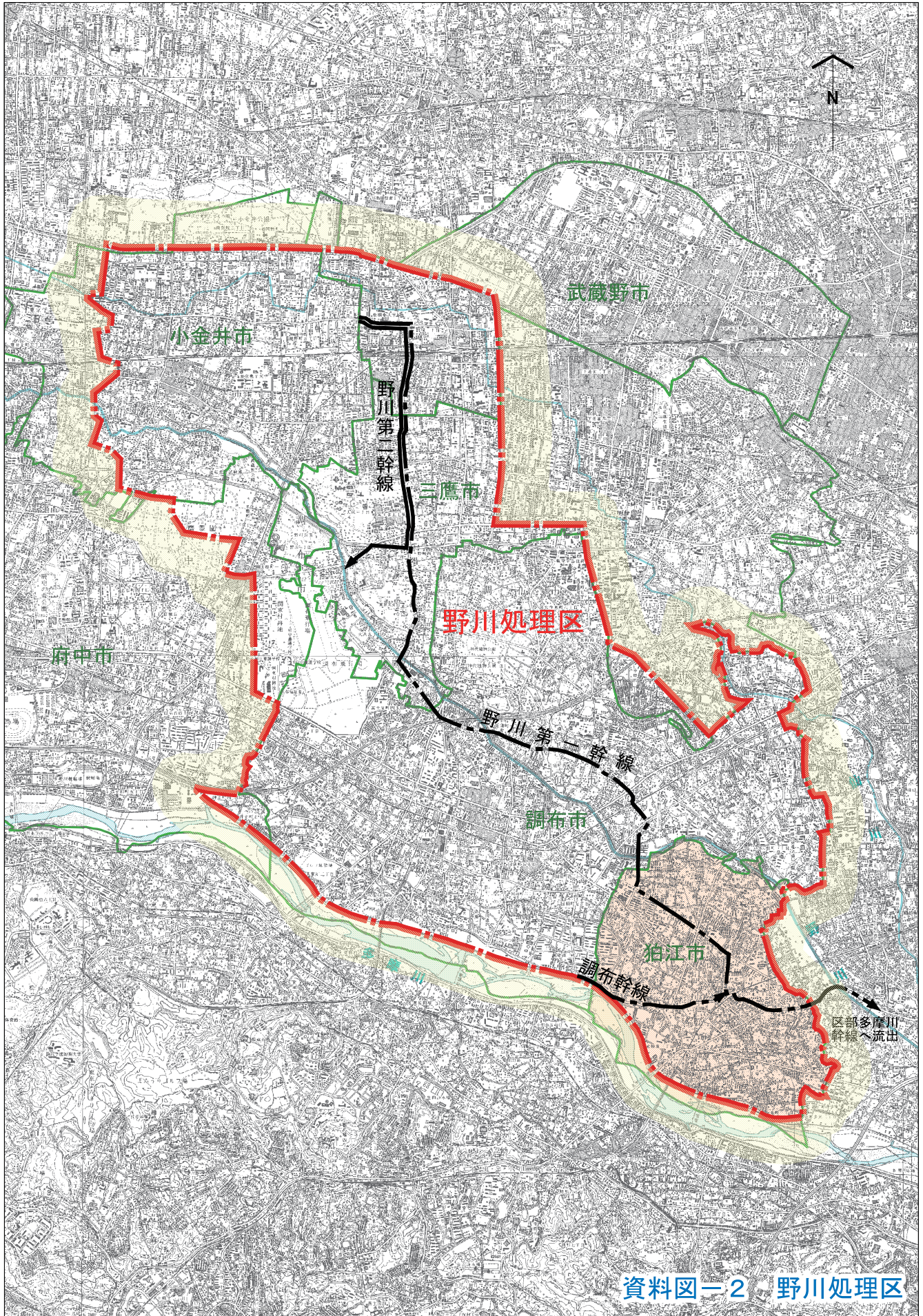
資料表－１ 野川処理区合流式下水道緊急改善計画（必要施策量・平成21年度策定）

関連市	合流方式の面積	平成25年度までに必要な総貯留・浸透量 (m ³ /hr)(m ³)	対策施設の種類の	平成20年度までの施設設置数 (基,m,m ² ,m ³)	対策期間(H21～25年度)における整備量		
					下水道管理者による整備量 (基,m,m ² ,m ³)	民間による整備量 (基,m,m ² ,m ³)	
狛江市	389ha	5,654 m ³ /hr 1,700 m ³	浸透ます	1,848 基	1,182 基	813 基	369 基
			浸透トレンチ	7,036.0 m	1,269.0 m		1,269.0 m
			貯留施設		1 基	1 基	
小金井市	728ha	49,143 m ³ /hr	浸透ます	38,702 基	5,465 基	0 基	5,465 基
			浸透トレンチ	27,763.0 m	2,550.0 m	0.0 m	2,550.0 m
			浸透人孔	135 基			
武蔵野市	256ha	15,425 m ³ /hr	浸透ます	6,987 基	1,567 基		1,567 基
			浸透トレンチ	14,627.0 m	2,482.5 m		2,482.5 m
			道路浸透ます・人孔	157 基	20 基	(20) 基	
			道路浸透舗装	5,757 m ²	3,609 m ²	(3,609) m ²	
三鷹市	398ha	27,222 m ³ /hr	浸透ます	11,800 基	3,090 基		3,090 基
			浸透トレンチ	18,133.0 m	6,180.0 m		6,180.0 m
			道路雨水貯留施設	2,487.0 m	393.0 m	393.0 m	
			透水性舗装	28,313.0 m ²	1,510 m ²		1,510 m ²
府中市	144ha	4,306 m ³ /hr 400 m ³	浸透ます	2,016 基	1,101 基	231 基	870 基
			浸透トレンチ	3,369.4 m	1,022.8 m	71.3 m	951.5 m
			貯留施設	0 基	1 基	1 基	
調布市	1,832ha	41,151 m ³ /hr	浸透ます	14,030 基	10,602 基	5,512 基	5,090 基
			浸透トレンチ	38,808.0 m	9,205.0 m		9,205.0 m
			浸透井	1 基			
			透水性舗装	11,246 m ²			

備考：武蔵野市の道路浸透ます等は、道路事業により整備するため換算値を用いている。

※東京都下水道局流域下水道本部資料を加筆修正

備考：狛江市の貯留施設は、「野川処理区合流式下水道緊急改善計画」では、必要貯留量を 1,700m³ としていますが、「狛江市合流式下水道緊急改善計画」では、貯留施設の設置位置を考慮して検討した結果、それを確保する 1,800m³ の貯留管を計画しています。



資料図一2 野川処理区

<資料－3> 狛江市の地盤の特徴と地震対策

狛江市の地盤の特徴とそれに対する地震対策を示した図を、資料図－3に示します。

狛江市は、一部で液状化地域（液状化の危険度が高いとされる箇所）が見受けられますが、全体的には液状化危険度が低い地盤となっています。

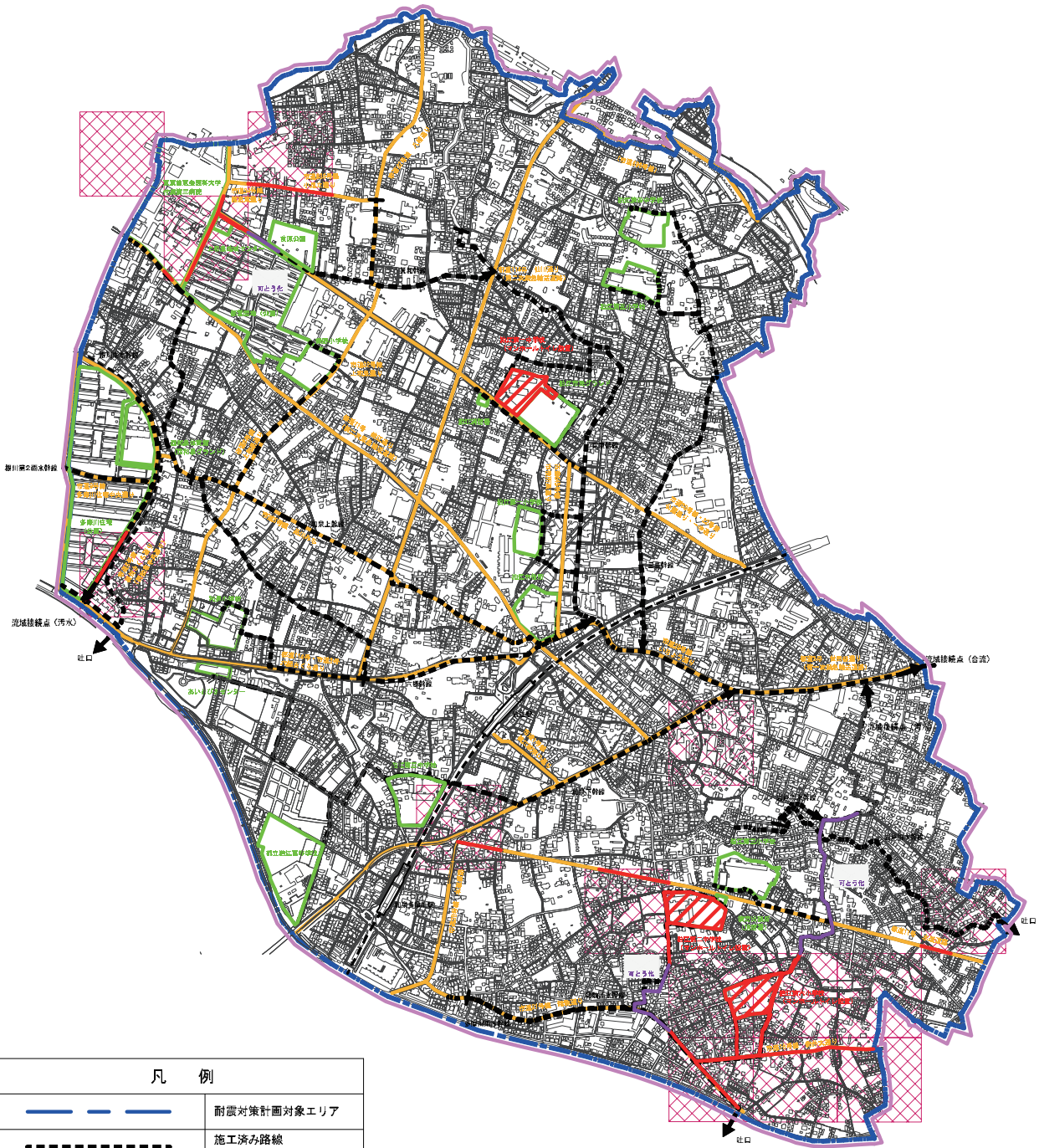
液状化地域においては、重要な幹線等（幹線、緊急輸送路下の布設管渠^{きょ}、防災拠点から幹線まで導く管渠^{きょ}等）に対して地震対策を策定しており、緊急に実施する計画としています。

備考：液状化地域は、狛江市をメッシュ分割して、概ねの地盤の傾向を示したものであり、そのメッシュ全域で液状化の危険度が高いということではありません。

狛江市下水道総合地震対策の基本的な考え方

- ①重要な幹線等のうち、液状化エリアに布設されている路線に対しては、「マンホールの浮上防止対策」を行う。
- ②重要な幹線等のうち、液状化エリアからの排水をうける路線に対しては、「マンホールと管渠の接続部の可とう化」を行う。

狛江市下水道総合地震対策計画図



凡 例	
	耐震対策計画対象エリア
	施工済み路線 (未耐震化かつ今回対象外)
	DID地域
	施工済み路線 (耐震化済)
	計画期間内施工予定 (マンホール浮上防止対策)
	計画期間内施工予定 (可とう化)
	マンホールトイレ設置箇所
	避難地、病院等
	緊急輸送路
	液状化地域

資料図－3 狛江市の地盤の特徴と地震対策

○ 狛江市下水道総合計画策定及び再評価委員会

委員名簿

役職	選出区分	氏名
委員長	学識経験者	長岡 裕
副委員長	市民	松島 正
委員	市民	白井 和恵
委員	市民	杉本 一正
委員	市民	藤嶋 勲
委員	市民	谷田部 和恵

開催日程

- 第1回 平成21年 7月 30日
- 第2回 平成21年 9月 16日
- 第3回 平成21年 10月 28日
- 第4回 平成21年 12月 1日
- 答 申 平成21年 12月 17日

○ 狛江市環境保全審議会・開催日程

- 第1回 平成20年 11月 12日
- 第2回 平成21年 2月 23日
- 第3回 平成21年 9月 30日
- 第4回 平成22年 2月 25日

○ 市民説明会・実施日程

- 第1回 平成21年 7月 3日
- 第2回 平成21年 7月 5日

○ パブリックコメント・実施日程

平成21年 10月 1日 ～ 平成21年 10月 20日

○ 狛江市下水道総合計画策定庁内検討委員会

委員名簿

役職	職名	氏名
委員長	建設環境部上下水道課長	石原 賢二
副委員長	建設環境部都市整備課長	山田 稔
委員	企画財政部財政課長	高橋 良典
委員	総務部安心安全課長	松本 培夫
委員	建設環境部環境管理課長	斎藤 亮一

開催日程


- 第1回 平成21年 4月28日
- 第2回 平成21年 5月26日
- 第3回 平成21年 6月19日
- 第4回 平成21年 7月24日
- 第5回 平成21年10月22日
- 第6回 平成22年 1月13日
- 第7回 平成22年 2月10日

狛江市下水道総合計画

～わたしたちのくらしと水環境の未来のために～

(本編)

発行年月 平成22年3月
発行者 東京都狛江市
〒201-8585
東京都狛江市和泉本町一丁目1番5号
TEL 03-3430-1111
編集 建設環境部上下水道課下水道管理係
刊行物番号 H21-28
印刷者 庁内印刷
頒布価格 90円

 再生紙を使用しています。